常磐毎日新聞
日刊
十一月十　日夕刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
福島縣石城郡平町長橋町三五ノ
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）東京 四〇二一〇番

天氣豫報

今晩は北東の風曇明日は南西の風曇り驟雨模様

優勝旗授與をめぐる旋風的な紛爭
スポーツ精神を冒瀆すると
權威者に照會狀

軟式野球問題化

平町軟式野球協會主催平町軟式野球大會は昨十五日平商第一兩球場で開催、同日午後城山チーム對平鐵チーム決勝戰を第一校球場で城山先攻で水竹（磐陽審判協會所屬）球審の下に開始、夕闇迫る同四時過ぎ閉戰平鐵に輝く優勝旗を授與したが、果しなくも此の優勝旗授與を繞つて明朗なるべきスポーツ精神を冒瀆する不祥とし識者間に問題を旋風的に捲き起こして磐陽スポーツ界に山雨至らんとする危機を孕むに至り二年連勝の榮冠を逸した城山チームは極度に憤慨早速東京野球界の權威數氏に宛て事情を縷々詳述した照會文を發してその回答を待ち飽くまで是非を判然させると悲憤の叫びをあげてゐる

突如下された奇怪な宣告
興味の頂天に立つ觀衆呆然

危機を孕むに至つた起因は先攻の城山チーム第一回戰表一点を入れたのみに反し、平鐵第二回戰裏二点獲得、第六回戰裏まで二對一でリード平鐵の優勝を思はせたが第七回表城山の頑張りよく功を奏して貴重な一点を入れ同点となり、同七回裏平鐵の攻擊振つて優勝するか昨年の覇者城山好く守つて同点となり延長戰或ひはドロンゲームとなるか試合は興味の頂天に達して觀衆はスポーツの醍醐味に陶醉させられたが突如水竹球審から閉戰が宣せられて奇怪にも城山チームに取つては勝敗を分岐する同七回戰裏を中止勝敗決定せざるに平鐵側に優勝宣告優勝旗を授與したものである

審判協會某氏の談

紛糾の同問題に關し審判協會の某氏は語る

實に意外です、當然ドロンゲームとなり後日日を新らたにしてやりなほすものと思つて居りましたが突然平鐵に優勝旗を授與したのは豫想外のことで驚いてゐます、ルールにそうした定めがあるとは勿論私達としても聞きませんし、何等かの間違であると思ひますが何れ判然する日も近いでせう　云々

小名濱に入港
惡の紛裝
大芝居が暴かれて
脫走船捕る

先頃小名濱港に入港した一漁船が忍かに船體を塗替へ船名を變更して海路遙かに逃走した事實あるを同地の平署警部補派出所が探知し不審を抱いて各方面に手配中のところ十三日靑森縣八戸港に入港し湊水上署の手に依つて拿捕した旨通知があつた由

右漁船は八戸市湊町大字白銀鈴木善七の所有で同人は本年九月上旬北海道北見國網走町高杉久夫外一名から八千五百圓を出資させ十六トン及び十八トンの漁船を建造し十月までに八千圓代の漁獲物を提供し萬一不漁の場合は二隻を返還する契約をしたが散々な不漁のため十月卅一日夜二隻の漁船へ五十名の漁夫を乘船させたまゝ脫走し途中暴風のため釧路港へ避難したところを網走署の手配により釧路署の手に拿捕されたが官憲の隙を窺つて又もや脫走し前記の如く小名濱港へ入港したのであつて實際船體や船名の塗替ばかりか名義まで實弟善四に書替へる等實に惡辣な所業に及んで居る

常陽行員の指で
名手を總なで斬り
觀衆も舌を卷く早業
平商主催の珠算競技

既報、平商主催の第一回郡下珠算競技會は去る十四日午後一時から同校講堂に開催、眼にも止まらぬ早技で盤上火華散る接戰を展開一般の觀衆に舌を捲かせたが各部の入賞者は左の如く第三部では過般來全日本の選手權を目ざし連日猛練習に怠りなかつた常陽銀行平支店員が全部入賞流石はとの感を深からしめた

△第一部（小學校尋常科）1入山2平第一3平第三（同高等科）1湯本2平第一3好間

△第二部（町村吏員）1平町役場稻沼秋一2同渡邊源彌3大浦吉田久彌4平町役場山田文平5同江尻喜一郎

△第三部（一般銀行、會社、官廳）1常陽銀行平支店細川信夫2同石橋寅吉3同五十嵐省三4同小川昌5同高橋光

遞友賞
平局珠算に昨日の結果

平局並に附近三等局の珠算競技會は昨十五日午前九時から同局樓上に參加者四十餘名で開催、各種目入賞者を決定後遞友賞

獲得の優勝傳票獨算競技に入り〻澤保三君優勝、第二位山口吉助君、第三位高久鐵夫君が入賞した各部の一等入賞者左の如し

△傳票獨算甲組〻澤保三△同乙組高久鐵夫△獨算讀上甲組山組吉助△同乙組松浦富次郎△女子傳票獨算甲組磯上キヨ△同乙組田母神フミ△傳票聯合算爲替部（秋山、國府田、〻澤）△揭示數暗算甲組赤塚正男△同乙組小林藤

平商珠算入賞

平商は去る十四日郡下珠算競技會に第四回校內大會を催したが入賞者左の如く各賞狀を授與された

1四年佐藤滿憲、2五年秋山義雄、3四年會田長太郎、4三年加澤清、5四年平田良平

月曜是非
郷土の土産品

郷土民謠といふ様なものが一時大いに持てはやされた時がある、夫れ以來民謠熱が擡頭して、一方流行歌の影響を受けた小唄や音頭の類が各地に氾濫した。同時に盆踊りの如き土臭い舞踊も寧ろ盛んに奬勵されて、若い男女は天下御免で亂舞する愉悦境を發見した。

そして此の傾向は郷土意識の高調に可成りの拍車を掛けるに力があつたと思ふ。

斯くして從來の郷土教育が史蹟や行事の探究に依る郷土愛の涵養に努むる一方に、卑俗な方面から、寧ろ手つ取り早く故里の有難さを普及した。

今は更に進んで『お國自慢』の郷土紹介に各地とも汲々と鎬を削るに至つて居る、その役割りとして選まれたものが、その土地獨特のローカルカラーを多分に持つ工藝土産品、就中玩具や人形の如きものである、各地は是等の産出に競つて精出す事に努め、既に相當の産額を納めて居る處もある。

民謠や舞踊は生活上の慰樂的對象物であるが、土俗工藝は生活保全の上に副業的立場に置かれてあるだけに、經濟的な根強さを將來にまでも約束されて居る。

本郡農會も四年後のオリンピックに於ける外來の觀光客を當て込んで、竹細工、貝細工、木彫等夫々郷土的の興趣深い移出土産品を農山村の製作に委ね、是れを大いに指導しやうとのプランを有するやに聞いて居る極めて結構な事であると思ふ

本郡には斯かる方面の土産品が絶無である、餘りに不器用さの暴露ではあるまいか。隣接久之濱には、古來天狗の面や達磨等稚拙愛すべき土俗製作がある。本郡でも少しく頭をひねれば、何か思ひつきの郷土色豐かなものを生む事が決して至難ではないと思ふ。誰れか此の點に着目する人はないか。

此の勢で
「冷害を克服」
山間部の稻作改善

本郡山間部に於ける水稻は二年越しの冷害凶作を排して今年は並作以上の豐作である爲め今後はこの成績で冷害を克服しやうと十六日三阪小學校、十七日澤渡小學校で郡農會主催の許に農事實行組合農會その他關係者の恒久的稻作改善座談會を開催すると

雨の邪魔立てに
選手權競技不振
▽……記錄破りは只一つ

既報、關協石城支部主催第一回オール石城選手權大會は昨日午前九時から磐中グラウンドに冷雨を衝いて旺んに擧行された縣體育協會が來るべきオリムピック大會に鐵壁の備へ堅く縣下陸上競技界の擴大強化を圖らんとしてゐる折柄だけに縣下の常勝軍たる石城勢が果して何處迄の健鬪振りを發揮するかは正に縣下の注目する處であり今回の選手權記錄が期待される所以であるが雨に祟られてグラウンドコンデーション頗る惡るく僅か砲丸投の一種目に入山靑野君が縣記錄を破つたのみで其他は何れも不振を示した

△百米1一二秒二磐炭藁谷庚2同大谷岸雄3平第三石田仲六郎

△二百米1二五秒七磐炭大谷岸雄2同藁谷庚3古河田中清

△四百米1五五秒七磐炭寒河江武雄2古河千代剛平3古炭大谷岸雄

△八百米1二分二〇秒七磐炭寒河江武雄2古河金成運安3古河泉美

△一千五百米1四分四〇秒四磐炭小池敬一2平商古市勝美3入山本田富雄

△五千米1一七分三〇秒九磐炭小池敬一2入山平間德次

△四百繼走1五〇秒八磐炭チーム、

△八百繼走1一分四六秒三同チーム

△砲丸投1一二秒六七入山靑野輝夫2平第三西牧清

△走巾跳1六米三九丹野富士夫2入山佐藤吉雄3磐炭阿部幸男

△圓盤投1三四米七〇入山靑野輝夫2平窪鈴木正3平第三西牧清富

△棒高跳1三米三〇入山森山東吾2平商西山正之3入山佐藤直

△走高跳1一米七〇磐炭高橋勇吉2同花澤保夫3入山森山東吾

△槍投1四五米五九平窪鈴木正2入山佐藤吉雄3平第三西牧清富

△三段跳1一三米五入山佐藤吉雄2磐炭丹野富士夫3磐炭高橋勇吉

教員の庭球戰

石城郡下教員の庭球大會は既報の如く去る十四日午後一時から櫻ケ丘A、B、Cコートで擧行されたが參加五十チームの接戰盛んで準決勝後の戰績左の如し

△準決勝

平（横田　一松本）2―3勿來（正木　菅野）

好高（鈴木　長谷川）3―0（上遠野　山田）

△決勝

好高（鈴木　長谷川）5―1勿來（正木　菅野）

災害工事の査定
二割減の八萬圓

平土木監督所管內昭和十一年度災害工事關係ケ所に就いては去る八日今來郡して內務省大石技師外四名が調査中であつたが十四日終了、發表された處に依ると同管內豫定ケ所橋梁、河川、道路の約八十ケ所、十二萬圓は左記の如く五十ケ所約二割減の八萬餘圓に減額された

◎橋梁島橋外八ケ所◎河川仁井田川外三十ケ所◎道路植田間明線外十一ケ所

尚同工事は來る縣會に圖つた後明十二年度から着工される

中の作海上で
漁船が坐礁
二名の重傷者

昨十五日夜十時頃江名町大字中ノ作築港沖合一浬の海上で同港に入港せんとした茨城縣多賀郡豐浦町川尻金成虎次郎氏所有アグリ漁船小貝丸（三十五噸積載）が折柄の闇夜に進路を誤つて坐礁、乘組漁夫川尻生れ福岡忠太（二〇）は足部骨折の傷を負つた、尚同遭難漁船は本十六日早朝江名町漁船が出動して中ノ作港に曳航したがその際同乘組漁夫鈴木兼吉（一六）は頸部に全治三週間の重傷を負つた損害は千餘圓の見込

磐女軍大勝
學習院競技に

既報昨十五日學習院に開催された關東女學校體育聯盟主催第二十回選手權大會に出場した磐女體育軍はコンデーション頗る良く各種目に入賞、メタル十六、賞狀四を獲得本縣女子スポーツ界の爲め萬丈の氣を吐き一方庭球も破竹の勢で準決勝に臨み小田原高女に惜敗したがメタル二、賞狀一を得て三等に入賞、これ亦其名輝かしいものがある各競技部員の戰績左の如し

△三段跳1一〇米一七木村トシ△百米3同人2北郷ハルイ△走巾跳1四米四二北郷ハルイ2五十石剛子3馬目喜久代△五十米2五十石剛子5北佐道子△走高跳4湧[illegible]久子△二百繼走2△四百繼走3

漏電か
受信室失火

赤井村驛前日本鑛業會社受電室から昨十五日夜十一時半頃發火、同十二時半鎭火したが損害百餘圓原因は漏電らしい

健康週間
第三校行事

平第三校は今十六日から健康週間中の行事は左の如くである

（十六日）校長訓話、結核のお話、ポスター掲示、豫防宣傳ビラ配付（十七日）ラヂオ體操、（十八日）ラヂオ體操、健康相談、衞生檢査、齒みがき教練、先生方の運動（十九日）健康唱歌の指導、衞生寫眞、（二十日）ラヂオ體操、（二十一日）遙拜、ラヂオ體操唱歌合唱、校舍內大掃除

平局樓上で
電信競技

平局並に郡下三等局の電信競技會は二十二日午前九時から平局樓上で開く

利用者の
通信懇談
來月五日にマルトモで

平局恒例の通信事務利用者懇談會は十二月五日同町マルトモホールで開催される

背後から
突倒す

川前村驛前稻沼喜代松（四三）は去る八日夜自宅で下小川村上平橋本萬次郎（三五）と飲酒中口論となり橋本が便所に立つた背後から突き倒した揚句頭部を蹴つて全治三週間の傷を負はせたこと發覺十六日平署に檢擧された

損の上塗
周旋業騙る

平町五町目人事周旋業靑木恒櫻（三九）は同町南町料理店浪花亭から横領罪で十五日平署に告訴されたが同人は去る六月中浪花亭酌婦山川トキが前借金百二十五圓を踏みで逃走したのに介在、前借金を取戻してやると山川から七十圓を受取つたまゝ着服したもので他にも同人は昭和九年中同家から酌婦を世話すると三十圓騙取したこと判明した

お斷り　『濱三郡教員書展を見る』は記事輻輳に付き休載

不拔の信念に
座禪の三昧境
有志が發起で
毎夜性源寺に

落ち付きのない近代生活に座禪の精神を取り入れて確固不拔の信念を把握しやうと弘源寺住職高木補教、淸雲院同小林隆勝平商工會の猪狩庄平の諸氏が發起となり十七日から廿一日迄毎夜長橋町性源寺に座禪會が催される講師は遙々妙義山から來郡さるゝ佐々木全榮氏で六時から三時間座禪や提唱、獨參の講義があると

借財整理と僞り
甥の山林を賣る

箕輪村大利農片寄秀次（五三）は去月十一日同村居住の甥新妻重春（三〇）に借財整理を依賴されたと詐り同人所有の杉山を三百五十圓で他に賣却、横領したこと發覺十五日平署に檢擧された

炭礦の
斤先堀爭ひ

平町仲町炭礦業田中秀雄（三〇）は赤井村今田久治（五〇）を相手に平署へ詐欺の告訴を提起したが理由は田中は赤井村地內川瀬幸治氏所有坑の斤先堀を經營してゐるが附屬建物器具類は前經營者（平町森眞一氏）のものなのを今田は自分の所有の如く裝つて田中から三百圓を騙取したものである

竊盜犯言渡

既報刑務所を出て三日後に又も盜みの罪を犯し懲役五ケ年を求刑された湯本町字辰ノ口目下住居不定無職前科二犯星野六平（三三）に係る竊盜及同未遂事件は今十六日午前九時から平區で中島監督判事から懲役三年六ケ月を言渡された

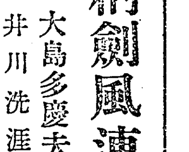
ラヂオ　JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間 管絃樂その他
▼後六、二五　英語講座 勝俣詮吉郎
▼後七、三〇　講演「國有林の沿革とその使命」農林大臣島田俊雄
▼後八、〇〇　常盤津「常盤乃老松」常盤津仲登良その他
▼後八、三〇　箏曲 佐藤美代勢その他
▼後八、五〇　歌謠物語「愁夜曲」江戸川蘭子他

明日の部

▼前一〇、一〇　幼兒の時間 童謠とお話「鼠の歌」大阪市中大江校兒童…桃谷中繼
▼前一〇、三〇　家庭講座「洗濯石鹸の見別け方、使ひ方」靑木良吉
▼後〇、〇五　モダン小唄「嫂家族」明日待子他
▼後〇、三〇　國民歌謠 內田榮一他 桃谷中繼
▼後二、〇〇　小學生尋三の時間 學校劇「草薙劍」玉川學園コドモ會
▼後二、四〇　小學生高等科の時間「ドイツ興隆の話」黑正巖
▼後六、〇〇　子供の時間「遠洋漁業より歸りて」一境田常雄他
▼後六、二五　靑年の時間「天文の研究に志して」五味一明
▼後七、三〇　講演「歐米より歸りて我胞に告ぐ」嘉納治五郎
▼後八、〇〇　講談「安兵衞の生ひ立ち」小金井蘆洲
▼後九、〇〇　合唱と管絃樂「ベートーヴェンの第九交響曲」大阪音樂學校生徒



白柄劍風連

（禁上映上演轉載）

大島多慶夫作
井川洗涯畫
（高弟）布施長春畫
村瀨春映畫

囁く小徑（五）

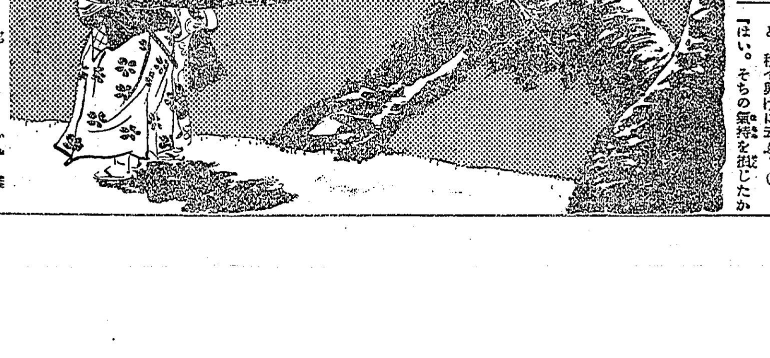
……二……

わかれ〳〵に咲いてはゐれど水にうき寢の根はひとつ。

この聞き慣れた俗曲などの、女どもが心意氣だと云つて能く唄ふ『投げ節』が、囁きじまんの唇どれの口から、艶しみに溢れた小唄のうちを、かきむしむ男女の魂のやうな艶調を帶びて、木の間を縫つて流れて來た。

と、一つになつてゐた影が、また二つに分かれて、月の雫がさくら若葉にポタリ、ポタリと瑤のやうに滴をつくつて落ちてゐる。

『お京。小唄といふものは不思議に人情を文字に表はして居るのう』



十郎左衛門、珍らしく感傷味の溢れたことを云つて、愛するもの〻顏を見迴つた。

『夜が更けますると……何だか妙に冷えて參りました』

『うむ。邸へもどらうかな』

と、十郎左衛門は空を仰いだが、嬌い艶やかにかゞやいてゐる姿をうつとりと見て

『しかし家へ入るには惜しい夜だのう』

『えゝ』

『お京』

『はい』

『そつと話をしながら、そゞろ歩きをしやうか』

『でも誰か人目にかゝりましては……？』

『何。大丈夫ぢや。お互は人目を忍ぶ仲ではない。儂がそちを可愛がつて居ることは奧も能く承知いたして居る。邸のものも承知だよ』

『でも世間の人が……？』

『はゝゝゝ、お京そちはそんなに世間が怖いか』

『さうではございませぬが……お殿樣の御迷惑になつては大變と存じまして』

と、お京は悦に入つてる十郎左衛門の顏を見上げた。

すると、成秀に[illegible]くお京の瞳をたゝいた。

『戀といふものは外聞を憚つて居つては、面白うはないものだ』

お京は遙に柔和な面を變へた

そして、眼を少し釣つて

『お殿樣。あなた樣は面白い可笑しいで色戀を……？』

と、稍不興げに云ふ。

『はい。そちの氣持を損じたか

いや決してさういふ意味で申したのではない。[illegible]といふものは、世間體や人の陰口などを氣に病んで居つては、出來ぬものぢやといふのだ。判つたかな』

『えゝ、よく判りましてございますが……あたしや大勢の世間の御體裁か……怨まれるかと存じてそればかりが心配でなりませぬ』

『それこそ要らぬ心配ぢや。儂は最早女遊樂をふつゝりとやめやうかと考へて居るのぢや』

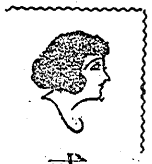
『まあ。お殿樣のお口上手な……。そんなことがございましたらば富士や筑波に雪がなくなりまする』

『まつたくぢや。いつでも女と酒に身をもちくづしては居られんのう。儂は考へた。白柄組は女遊樂や酒飲みの集ひではないのだつた』

（婦人の立場から）

或る婦人の態度

富本一枝

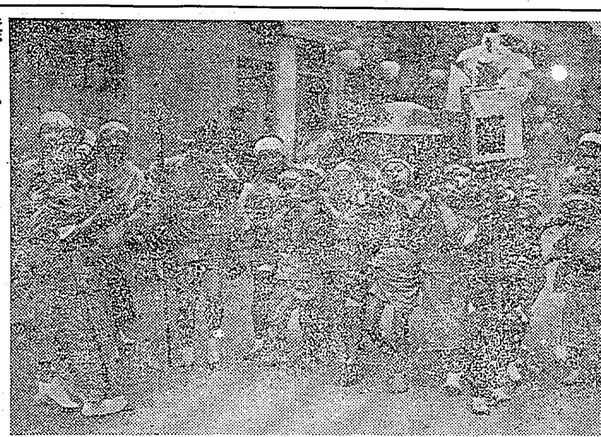


或る橋際に乞食の老人が跼に叩かれてゐて、其の様子はあらゆる感覺的なと云ふより、もつと生活に直接的な感覺に對する要求を失つてしまつてゐた。身を屈めて物乞ひする度に、鬚の先から雨がぽたり〳〵と落る。私は乞食に思ひやりの眼ざしを投げはしなかつた。憐んで金を與へたりする氣持ちは、既に、昔のことで、乞食すると云ふことが彼等の一種の職業で、それによつて財源を造つてゐる者をしつてゐる。併し、心のどこかでは何故か私は乞食に負債があるやうに氣持ちを起させる。それが何時も私を不愉快にさせてしまふ。所が私よりも一先前を歩いてゐた婦人が乞食の傍を行過ぎたかと思ふとすぐ引返してきて、無雜作に一錢投げ與へて、さつさと行つてしまつた。その婦人が、どんな氣持で金を與へたのかそれは知らない。けれど一錢にしろ、それを與へることが出來ず、妙な負債を持つ感じから解放されずに、のべつ氣掛りなものを持ち歩いてゐる自分に比べて、私はひどく其の婦人の態度に刺戟されてしまつた

子供と小遣錢

指導は家庭教育の重要問題

彼等は生産と—消費の喜びを欲求



子供にお金を持たせるのがよいか持たせないのがよいか、子供に金錢お金を持たせないといふことは現今では出來ない話だし、それなれば幾ら程持たせてよいか、どんな風に持たすべきか？　といふ問題は親として毎日々々苦勞する事柄です、この問題は日本ばかりでなく、今春のロンドンタイムスにも家庭教育の重要問題として取扱はれその中の統計によると東ロンドンの比較的下層生活者の家庭について調査した所によると十年前までは子供の消費する小使錢は『ペンス』位のものが現在では『シルリング』位になつてゐると報告し、なほ問題の提出者はこの子供の小使錢として一ケ年の全兒童に消費さるゝ總和は多額なものとなりこの小使錢消費法の指導は國民生活上の大きな問題とし、主として國家經濟問題として取扱つてゐます。

私共の周圍の子供達について調べても、十四五年前と現在では子供の小使錢の消費高を比較すると前述の事柄は首肯出來ます。

私共幼兒の保育指導に從事してゐる者にも、よく兩親からお金を使つて困ると濫費することを聞かされるのです、子供に濫費する時代は必ず來るのですが、その時ほど子供にとつて大事な時期はなくこの時の指導を誤ると子供の將來に大きな影響を及ぼします。

そこで小使錢の與へ方と使ひ方指導は家庭教育の重要な問題となるのです。

この指導方法は子供の個性により又親によつて自ら異なるものですが、この問題を考へてゐる時先般旅行の際或座談會に出席しましたその出席者の中に感化事業に從事する人から不良少年問題について話された中に『不良少年の特徴は自分の持物、たとへば鉛筆、小刀紙、手ぬぐひ、着物等を忘れ破り紛失し粗末にすることが普通の子供とは比較にならぬほど甚だしい』といふのでした。

私はそれをきゝながら考へましたそれは『各々子供達が強くはげしく望んでゐる自分の生活を自分で立てるといふことが何うかの理由で出來ないためである』と。

といふ理由は、生活とは大體に、生産と消費といつていゝわけですが、上流の家庭の子供は親戚は周圍か一から十まで與へてしまふので働く餘裕がなく自分の能力で自分の生活をする餘地がなくなる、即ち子供の生活にはすべて親のをとつたといふことになり、下層階級の子供は家が極貧であるため家庭内で自らの生活が出來ず、すべて社會から自分の生活をとるといふわけで——統計上不良少年は金持と貧家から出る數が多い——。

感化院などで、種々の勞働、手工などで、自分の能力の全部を傾注して生産させ、それを日常の消費に當てる、即ちどんな些細のことでも生産と消費の喜びを味はすことを主眼としてゐるのも理由のあることです。

こうした事は手工、お使、娯樂遊戲凡て子供の生活についても云はれる事柄です。子供から小使錢の要求があつた場合に幾ら與へるものかと心勞する事も大事でせうが、もつと〳〵根本的の問題たる『生産の消費の喜び』を味あはすといふ觀念で子供達の日常の行動に注意して適時に子供の金錢に對する態度をはつきりさせて行かなくてはなりません

假令の子供の生活から小使錢と所謂『一錢屋』といふ小路の子供倶樂部の問題は最近特に一考すべき事柄ですが何れ機會をみて發表しませう。

◇毎日のメモ◇

△國旗をしまふ時に竿頭の玉のはげたのはサイズニスと揮發油半々を筆にふくませ金粉をつけると宜しい

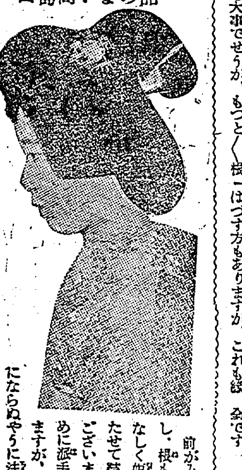
眼鏡の扱ひ方

◇眼鏡をはづしておく時　大抵の方が上向におきますが、これは眼鏡に大禁物です。眼鏡の度の中心は丁度球の眞中にあるので上向におきますと一番大切な部分が物に當り、傷つき易いわけです

◇またはづす時兩耳一度にさつとはづす方もありますが、これも鏡がゆるみ、度の中心が狂ひ勝ちですから、必ず右を取つてそれから左といふ風に靜かにはづします

◇玉をふく時にも、片方のつるの付根を持つたまゝ兩方の玉をふくことも亦眼鏡のためによくありません、片方のつるの付根を持つて片方づゝふきます

品のよい高島田



前がみも丸く詰めて出し、根も上り氣味におとなしく娘々した感じをもたせて結ひ上げたものでございます。島田は大きめに派手に結ふ方が映えますが、顏全體と不調和にならぬやうに注意が大切でございます。

しらが染のかぶれが心配

豫め手足に試せば安全

白髮染をするとかぶれるといふ人がありますが　それは特殊な體質により、また一種の藥品にもよるのです、即ちかぶれるのはパラフェニーレンヂアミンと過酸化水素との化合のためで、フェノール物質と過酸化水素との化合の際に發するガスが有毒なのです。そこで特殊の人がかぶれるといふのはたとへば漆にかぶれる人とかぶれぬ人があるのと同じ理窟で、もし白髮染をしたいが心配だと思ふ方は、染る前に腕の内側か足の皮膚のやわらかい部分にあらかじめ塗つてみることですそして若しブツ〳〵の出る人はかぶれる體質ですから染ない方が安全です

容器に醫藥用外劇物パラフェニーレンヂアミン鹽酸と書いてあるのが、この種の染料ですが、その他鉛と石灰と硫黄等を材料としたものもあります

これは、かぶれぬかはりに毛が切れる慮があります、また硝酸銀を主材とするものは毛が灰色がゝつてきれいにそめ上りません、パラフェニーレンヂアミン鹽酸の白髮染めはたびたび使用してゐる中に中毒せぬかと心配する方がありますが、一度染めて何ともない方は絶對中毒しません、他の藥のやうに蓄積作用によつて毒になる心配はないのです

面白ニュース

世間珍聞さまざま

自動あんない機

いらつしやい…イギリスの地下鐵のプラットホームではお客さんに道順を敎へてくれる自動案内機といふ珍らしい器械が使はれ出しました。今ためしに自分がこれから行かうとする町の名をけいじされてゐる表でさぐり、それに相當した所に釦をおくと、その釦がひとりでに動いてちつとも間違ひなくその道順を敎へてくれます

白蛇のゐる島

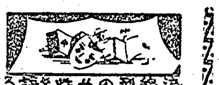
滿洲國の旅順の西方にウハベミ島といふ無人島があります。この島のまわりはわづか四キロぼかりの小さな島ですが、日本のマムシよりはからだがずつと大きく白い色をしてゐる白蛇のゐることは實にびつくりするほどでどうしても一坪に二匹の割には居るといはれてゐますから約五十萬匹は居るわけで、うつかり足でも踏出さうものなら一、二匹は忽ちグニャツと踏みつけてしまふといふことです、冬などでも小し土を掘ればたくさんの白蛇が地の中でウヨウヨしてゐます

音なし機關銃

これまでの機關銃はどこの國でもドツドツ…と恐ろしい音がしますから機關銃を射撃してゐるなあといふ事はすぐわかりますが、最近アメリカで發明されたものは音をたてずに彈をつゞけさまに打出すといふことです、これではじつさいあたつて見なければどつちの方から射撃してゐるなといふことがわかりません、鬪ひの時にはずいぶん面くらふことでせう

街の電話機

イギリスのロンドン市の町はずれには警官を呼出す空色の柱が立つてゐます、この函には小窓があつて、中に電話機がおいてあります。この電話機はすぐさま警察につながつて居りますから、誰かゞギャングにでも出會つたらちきに踏つけて受話器を取り上げて『ギャングです』と呼びかけますとすつかり用意して電話がかゝるのを待つてゐる警官達は『ソレッ』とばかり自動車に飛び乘つて時をうつさず駆つけギャングを取りおさへる仕組になつてゐます。流石はアメリカらしいことですね



貞操問題とか……藝術の上からいつての女性

乙川。それだから、好きな者は當然であるがきらひになつて、別に、新らしい男が出來、それと交渉があつても構はない。それは科學的の考へから云つて、むしろ潔白であると考へてゐる。それを曲解すると、彼方の男こつちの男と關係して、構はないと云ふことになるが……

甲野。それでは一つ！　貞操問題とか、藝術の上から云つての女性に就いて、誰方が御意見を……

丙本。私の知己の許へ、女學生みたいな人が澤山來るが、さう云ふ人達の考へ方に常に盛然的な氣持ちになつてゐるやうな氣がする。自分のすきな男がみつかつても、將來のことを考へて、其の男を信頼することが出來るかどうかと云ふ疑問を持つやうです。そこで、彼の男と仲よしになつたり、この男と仲よしになつたりして、その中に、結局いゝ加減の年齢になつてしまふと云ふのが、非常に多いやうです。そのために男は割合に幸ですね。

甲野。それの反證に養かれる女性、例へば、それでは困るからかう有りたいと云ふ、理想の女性としたら……

丙本。それはやつぱり、ひとりの男にそつ魂惚れて、その男が、死ぬまでも自分と與れると考へるのは、無理ではないかしら例へば、ボクの方だけでも今非常に惚れて、その女と死ぬ迄一緒になる氣で熱くなつてゐても、三年先に嫌ひになるか、又、それよりいゝ女が出來るかを今から保證することは出來ないと思ふ。

甲野。さうすると、價するに足る現代の女性はないと云ふことになるが。

丙本。さう云ふのがあるかもしれない。否、勿論、あるであらうが、一般的にいつて、いま言つたやうな傾向が、非常に顯著ではないかしら？

甲野。あまり悪口をいはれるが一人くらゐいて女の人を擧げてみられないかしら？

丙本。さうですね。ボクは堤眞砂子、彼の女優は割にすきですよくはしらないが、却々、立派な身體をしてゐると思ふ……

護れ太平洋の波

寺島柾史（作）
村瀬春映（畫）

—第十二回—

無電局爆破（六）

らしやめんお瀧は、まだ甘夢をむさぼつてゐる。

弗に買はれた、この脂肪の塊は、深紅の寢椅子に仰臥したまゝ國際都市上海の、紅燈綠酒の夢をみてゐたが、甲板の喧騒に夢破られて、やがて、眉をひそめながら顏をあげた。

ゆうべからの深酒で頭が痛い。のどが喝いたので枕元の水差をとつて、コップへ水を注がうとしたが空だつた。

お瀧はやけに、水差を床に叩きつけた。

硬質陶器は、特有のかン高い音をたてゝ、破片を四方に散らした

その物音におどろいて、隣室にゐたボーイが、おそる〳〵入つて來た。

『ばかッ！』

『はい』

ボーイは、硬くなつて、入口に突つ立つてゐる。

『水差に水が少しもないぢやないの…』

『はい、すぐに持つて參ります』

ボーイは去つたが、まもなくまた姿をみせた。

『お待たせいたしました』

お瀧は、ボーイのさゝげるコップをうけて、ぐい〳〵呷つてから

『甲板が騒々しくつて、眠られやしないぢやないか』

『はい、まことに相濟みません』

ボーイは支那人だ。かれは、甲板の騒々しさを、自分のせいのやうにして、ぺこ〳〵頭をさげた。

『何が、始つたのさ』

『はい、粟飯原さんが、暴れるもンですから…』

『それで？』

『はい、みんなで抑へつけて、いまマストにくゝりつけてをるのです』

『どうして、粟飯原が暴れるのさ』

『船長たちが、B島へ上陸するといつて暴れるンです』

『をかしいね、船長が上陸するのが、うらやましいとでもいふのかい』

『いゝえ、船長達が上陸して、日本の無電信局を爆破しようといふのです。それが口惜しいつて暴れるのです』

『何故、B島の電信局を破壊しにいくのさ』

お瀧は、退屈しのぎに、ボーイをとらへてたづねる。

『アメリカと、日本との戰爭のキツカケをつくるためなんださうです』

『戰爭？』

『さうです。世界に悪人かゐる戰爭企業家にたのまれて、アメリカと日本とに、戰爭をさせて、その企業家たちが金儲けしようといふのです』

『つまり、うちの船長は、その手先なンだね』

『はい』

『戰爭つて、そんな、はじめから計畫してかゝるものかい』

『はい、不意に戰爭になるものではありません。誰かゞ戰爭をつくるのです。戰爭といふのは、やはり企業の一つださうです』

お瀧は、考へてゐたが

『戰爭が、始まつてゐるといふぢやないの』

『いゝえ、まだです。でも、けふ、たつたいま、船長たちが、日本の無電信局を爆破したら、それで戰爭になります』

『厭だねえ、ぢや、アメリカの國民も、日本の國民も、みんな厭がつてる戰爭を、たつた一人のお金儲けのために起すなンか、まちがつてゐる』

お瀧はむつくり起き直つた。寢間着のまゝ寢椅子をおりて室を出ていかうとする。

ボーイは、恭々しくいつた。

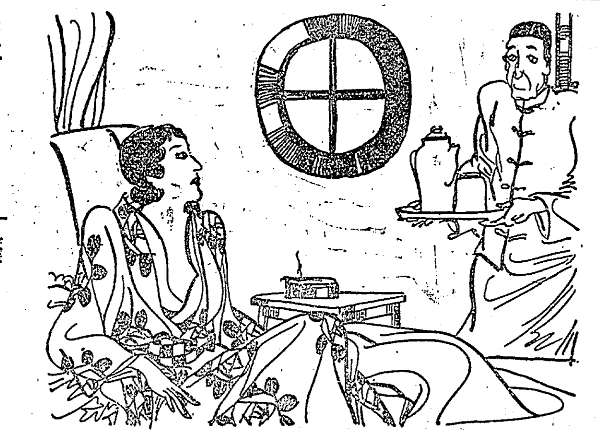
『お食事の仕度を いたしませうか』

『いゝのよ、放つといて 』

『では、お茶を』

『いゝつてのさ、うるさい』

そのまゝ、お瀧は、白い素足をみせて、甲板へ上つていつた。



◇オ寒サノオ用意出來マシタカ
◇クサクナイ煉炭ノオススメ

●本年暖房ノ御用意ハ放熱百パーセント体裁優美ノ煉炭ストーブ
●御座敷、事務室、銀行、病院、待合、食堂（五圓カラ……十六圓位迄）
●新型御座敷用木炭、煉炭兼用ストーブ……各種取揃ヘテアリマス
●煉炭火鉢　一圓七十錢……三圓五十錢迄（附屬品付、煉炭十四、三徳煙突付）
●專賣特許イソライト製日本一經濟ナ『日の丸』コンロ
●マッチ一本デ火ノ付ク着火炭……（從來粉炭デツケタ煉炭ガ、マッチ一本デツキマス）
●日本デ初メテノ臭クナイ『豆炭』ガ出來マシタカラオ試シ下サイ
●煉炭風呂桶……本二人用、並二人用　十五圓……二十圓迄、煉炭釜……六圓
（從來ノ石炭風呂ニ改造出來マス）

◇煉炭ストーブノ特徴

煉炭ストーブハ朝一度着火スレバ一晝夜一箇ノ煉炭デ平均溫度六疊間…八五度、八疊間…八〇度、十疊間・七五度デ、手數モハブケ、煙突モ不用、塵モタヽズ、價格モ安イカラ御徳用ノタメニ御スヽメイタシマス
御用命ノ節ハ店員現品持參デ御説明申シマス
▼御臺所經濟ノ第一歩ニ是非レンタンヲ御使用願ヒマス

大日本煉炭豆炭奥羽六縣代現店
住吉屋
酒井伴城商店
平驛前　電話六六一番

外科
專門　X光線科
上田外科醫院
平町南町　電話一二九番

和洋家具　建具
テーブル　椅子
其他裝飾品一般……
製作販賣
諸官衙　各學校　御用達
御用命は迅速に御努め致します
（片）片寄製作店
平町五丁目四
電話四八四　片寄小彌太

冬物は、是非！　當店から
（在庫豐富）

玉屋洋品店
平町田町通　電話六五六番

三井タクシー
平　二　電・五八六番

メガネは
正確にして
廉價
最新式
各国製
レンズ
眼鏡

豐富に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡即時調製）
根本時計店
平町二丁目　電話六〇七

吉田眼科醫院
平町紺屋町

鈴木醫院
平町田町　電五八番

本年度最優秀新柄
婦人ショール
￥1・80ヨリ
￥10・00マデ
本ラクダ製品
￥7・50ヨリ
￥11・00マデ
•新發賣•
防虫加工毛布
絶對保證
￥19・50ヨリ
￥25・00マデ
御婦人用毛糸製コート
￥9・80ヨリ
￥11・50マデ
御婦人用毛糸製羽織
￥11・50
其の他御子様用防寒用品澤山陳列して御座います
ツルヤ
平四・電一四〇

藥品
百貨
西村屋藥局
福島縣平町二丁目
藥劑師　鈴木堅助
電話三番
振替　東京六二二九九　仙臺一二〇一

（夜間診療）
胃腸
性病
專門
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
松村醫院
（平町南町一七〇番）

入院隨時
市原醫院
内科
小兒科
外科
梅毒
淋病
平町田町　電話一二四番
市原卯太郎
市原三三男

松茸料理始めました
松茸どびんむし

はもなべ	三十錢
煮込なべ	三十錢
鳥なべ	三十五錢
豚なべ	三十五錢
牛なべ	三十五錢
よせなべ	三十錢
ちりなべ	三十錢

平二警察署通り
魚清食堂
電話六三三

連日滿員御禮
豪華ナサロン
新タナ備設
御同伴デ御商談御會合ニ！
（心付御會計ノ一割外拜辭）
御食事
喫茶
小宴會
グルリバッカス
平・電七〇二
回女給増員募集　（料給三〇圓歩合十圓前後）
確實支給・衣裳支給
回上品明朗ナ方（面會正午ヨリ）